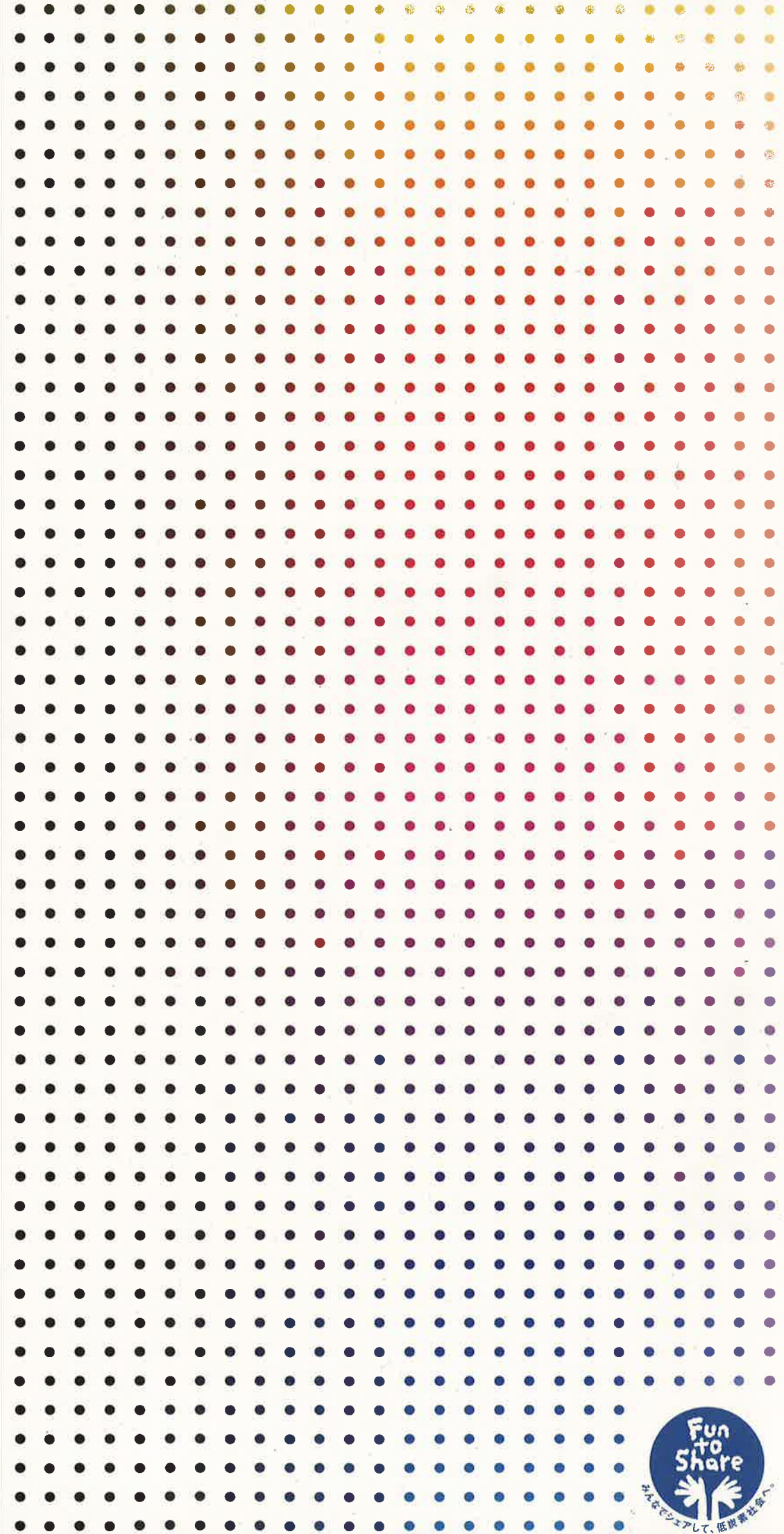


省エネ・照明デザインブック 2014

省エネ・照明デザインアワード優秀事例 20

Energy-Efficient Lighting Design Awards 2014



ホテル オリオン モトブリゾート & スパ

The Hotel Orion Motobu Resort & Spa



LED lighting gently illuminates the natural beauty of this resort hotel with its calming glow.

LED照明の穏やかな光で人と自然と地域を優しく照らすリゾートホテル

沖縄本島・本部町に位置するリゾートホテル。「沖縄美ら海水族館」を擁する「海洋博公園」に隣接し、遠景に伊江島、近景にエメラルドビーチと正対する立地に、238の客室、10種類以上のバリエーション豊かなレストラン、3つの屋内外プール、宴会場とチャペル等を併せ持つ。「外観デザインは、海底に眠る板瀬（いたびし・板状の琉球石灰岩）が隆起したかたちを連想させる基壇部、帆船を模した伸びやかな流線型の上層部により構成されています。」

また、外構デザインは、繁きを基本テーマとし、海とリゾートを一体に繋ぐ芝生広場やプール、隣接する備瀬地区の福木並木（地域の伝統的な防風林）と連続する植栽計画を施しました。（東急設計コンサルタンツ・佐藤盛信氏）

豊かな自然環境、歴史ある地域環境との共生というコンセプトは、照明計画においても大きな課題のひとつとなった。そのため、ウミガメの産卵地として知られる目の前のビーチへと漏れる光を最小限

にしてホテル方向への誘引を防ぐとともに、生態に関する徹底調査を行い、外構部には、ウミガメが視認しづらい低温度のLED光源（2700K）が採用されることとなった。

「館内共用部の照明に関しても、



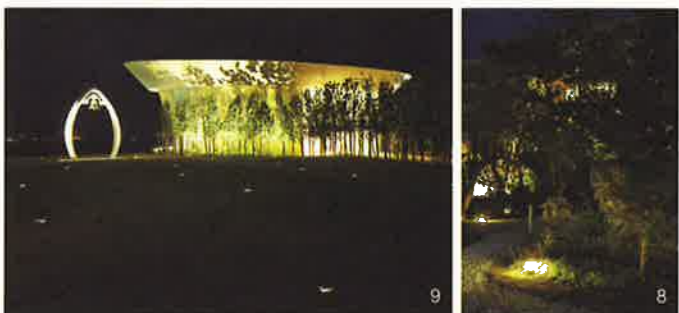
できるだけ低照度で快適な光環境を整えるための工夫を凝らしています。エントランスロビーには、調光タイマーにより、時間帯毎に異なるイメージのシーン設定を行いました。日中、間接照明とダウンライトによる照明は、夕食後には照度を落とし、深夜帯には福木の葉をモチーフとした「木漏れ日照明」に切り替えられます。ダウンライト内に設えられた「福木のイメージ」を床面に投影するというこのアイデアは、デザイン性を高めながらも全体の照度を落とす

新しい照明手法だと自負しています（内原智史デザイン事務所・内原智史氏）
これらを始めとして、ほぼすべての照明にLED光源が採用された他、ソーラーパネル付き蓄電池型LEDや乾燥剤により空気中の水分を直接除去し湿度を下げるデシカント方式による空調など、環境負荷を低減する設備がさまざまに設えられた。地域環境を優先しながら快適性と省エネが両立されたこの施設。これからのリゾート開発のひな形となりそうです。



4.5.6. エントランスロビーの日中と深夜帯。地域の防風林として今でも活用される福木（フクギ）をモチーフとした「木漏れ日照明」をモチーフとする「木漏れ日照明」を設置。デザイン性を担保しつつ、空間全体の照度を抑えることに成功。

1. 館内からガーデンを通してエメラルドビーチを望む。写真手前がイベント広場、中央上部のプール下の森が拝所、プール奥がウェディングチャペル。2. 自然の移り変わりを存分に楽しめるエントランススタ景。沖合に浮かぶ伊江島の城山の頂をセンターに配した建築計画と、自然の光を引き立てる照明計画で「おもてなし」を表現。3. メインフロアを貫く中央階段。壁と階段のわずかな隙間に間接照明を設置し、低照度でも高い視認性とデザイン性を両立。7. レストラン共用廊下。8. 敷地中央に現存する拝所（神と話ができる神女たちの祈りの場）。参拝者の安全を確保するためのLED照明を設置。9. ウェディングチャペル前の芝生広場には、ソーラーパネル付き蓄電池型LEDを設置。



●事業主/オリオンビル ●所在地/沖縄県国頭郡本部町 ●竣工年月/2014年7月 ●面積/全体34,440㎡、導入部分32,714㎡ ●建築設計/東急設計コンサルタンツ ●インテリアデザイン/日建スペースデザイン ●設備設計/環境設計園建 ●照明デザイン/内原智史デザイン事務所